

10.九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (九州)	良くなる	一般小売店〔生花〕 (経営者)	・入学、卒業シーズンで花の注文が増えるため、景気が良くなる。
	やや良くなる	商店街(代表者)	・今までは低単価の商品の購買が目立っていたが、今月に入りギフトだけでなく自家用品も高単価の商品の動きが良くなっている。
		商店街(代表者)	・入学、卒業シーズンに入るので専門店の商品を買う客がいくらか増える。
		百貨店(営業担当)	・雑貨・身の回り品は引き続き好調で、景況感が悪いわけではない。
		百貨店(経営企画担当)	・先月は例年よりも気温が高く、冬物衣料品の売上が低迷している。今月は若干持ち直すものの、先月のマイナスをカバーするまでに至らない。今後は、年末の帰省客の購買とクリアランスセールに期待している。
		百貨店(店舗事業計画部)	・1～3月にかけては、バレンタインなどのプレゼントや新生活の準備など、百貨店を利用するきっかけが多い時期なので、店側の提案次第で伸ばすことができると期待している。
		スーパー(店長)	・食料品の売上は安定してきているので、衣料品も春物に切替わる時期には良くなる。
		コンビニ(販売促進担当)	・今年1年間ずっと平均して前年の販売個数を上回ってきているが、来年はほぼ横ばいとなる。
		家電量販店(店員)	・今後の見通しとしては今月が底で、じわじわと上がってくる。ただ、あくまでも気温が景気を左右する。3か月後はやや良くなる。
		ドラッグストア(部長)	・春は気温変動による影響はそれほど大きくないことから、秋ごろの好況に戻るのではないかと考えている。
		都市型ホテル(販売担当)	・右肩上がりともではいれないが、良い結果が出る。
		旅行代理店(従業員)	・春先の予約は、国内、海外ともに好調で前年から大幅増である。特に海外は韓国が急激に回復し、予約数が前年比2倍の状況である。
		タクシー運転手	・今年は埠頭への海外からの大型船の到着回数が260回に達し、来年は400回が見込まれている。観光客はほとんどがバス利用のためタクシー利用は直接的には少ないものの、間接的に影響を受けそうだ。
		通信会社(企画担当)	・年度末に向けて駆け込み需要が増えるという予想をしている。年度明けも新規案件が動き始めるだろう。
	通信会社(営業担当)	・特定の地区にて情報インフラの整備が完了し、住民の大きな期待がかかっている。	
	住宅販売会社(従業員)	・これから消費税増税経過措置の2016年9月末までは、販売量も良くなっていく。その後も新税適用までは駆け込みでやや良くなる。	
	変わらない	商店街(代表者)	・気温が低下して防寒商材が動くことに期待したい。消費行動を促す施策に苦慮している。客の買物における慎重さは変わらない。
		商店街(代表者)	・来年に期待することもあるが、現状維持で推移していけばよい。
		商店街(代表者)	・収入が増えず、年金から引かれる金額が増えており、政府が発表しているような上向き傾向にはない。将来への不安もあり消費行動は非常に冷えてきている。特に高齢者はそれが顕著である。
		商店街(代表者)	・景気が上向きになる要素は今のところ全くないので、今の悪いままの状況が続いていく。
一般小売店〔青果〕 (店長)		・当地には大企業がなく、第1次産業を中心にした市町村である。その第1次産業関係が芳しくない状況が続くと全体のお金の動きも鈍くなり、景気もなかなか上向いていかないと考える。	
一般小売店〔鮮魚〕 (店員)		・今の様子でいけば少しは良くなる。ただ、売れていない店は相変わらずだ。	
一般小売店〔茶〕(販売・事務)		・先行き不透明であり、来年は今以上に厳しくなりそうである、景気は回復していない。	
百貨店(営業担当)		・カードポイントの金券交換やプレミアム付商品券の使用期間終了が迫り、薩摩切子などちょっとぜいたくな地元の特産品が大きく伸びた。この3か月でみると入店客数と買上単価はやや上向きだが、売上伸長率がダウン傾向にある。外国人客の買上増もシェアが小さい。客の二極化と自家需重視は継続する。	
百貨店(営業統括)		・1月は初売りやクリアランスがあるものの、景気の先行き不安要素があり、大きな売上伸長は見込めない。	

百貨店（業務担当）	・客から、消費税増税のタイミングをよく聞かれる。軽減税率のニュースのせいなのか、この春から増税と思っている客が多い。増税に対する客の生活防衛が現れ、購買に慎重になっている感もある。
百貨店（売場担当）	・入店客数については、今年の7月からずっと前年を超えており、今後も続いていくとみている。食品は客単価が前年を超えていて、12月も101.4%となっている。非食品については97%と前年割れがずっと続いている。ここ2～3か月の特徴として、衣料品関係が売れておらず、食料品が売上をけん引している。全体的には前年比95%前後が続く。今月は特殊要因がありそれを除くと97%であるが、中身を見るとあまりいい売れ方ではない。この流れはこのまま続く。
スーパー（店長）	・12月はボーナス月であったが、客は貯蓄に回している。
スーパー（店長）	・気候が悪いことと競合店の出店の攻勢が非常に多くなってきて、これまで以上に厳しくなっている。
スーパー（店長）	・消費税増税に向けて、消費者の購買心理はどちらかというところに入っている。競合店の出店、価格競争と今後ますます激化することが予想される。
スーパー（総務担当）	・前年売上に対しての伸び率の低下傾向が続く。
スーパー（経理担当）	・暖冬が続く予報が出ており、防寒関連の商品の動きが悪い。
スーパー（統括者）	・すでに良くなっており、これ以上良くなるとは考えられず、現状のままで推移する。
コンビニ（エリア担当）	・3か月後もこのような状況が続いて、厳しい状況は全く変わらない。
コンビニ（エリア担当・店長）	・天候に左右されることはあるが、客数自体そう伸びることが見込めず、プラス1品の客の買い控えもしばらく続いていく。全体的には売上はほぼ横ばいである。
衣料品専門店（店長）	・今後2～3か月の景気の変化はみられない。1月の初商いは例年通りであるが、暖冬になりそうなのであまり期待はできない。
衣料品専門店（店員）	・セール待ちの客が増えた。定価品で買っていた客がセールを待つようになった。
衣料品専門店（取締役）	・3か月先は春である。ファッション業界はかなり気候に左右されるため、3月の気候が寒すぎると物がなかなか売れない。景気が良くなるかどうかは全く読めない。
衣料品専門店（総務担当）	・いろんな要素を探しても良くなるという要因を全く見いだすことができない。
家電量販店（店員）	・日韓の外交での合意のような明るいニュースがあると、世相が明るくなり消費も活発になる。リオオリンピックがあるが、新技術を搭載した大型の新商品がないので、現状維持が精一杯である。
家電量販店（総務担当）	・年末年始も暖冬の予想で、商戦の盛り上がり期待できない。
乗用車販売店（総務担当）	・今月、新型車が投入されたが、その効果により、しばらくは堅調な販売台数確保が期待できる。
その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	・12月の繁忙期を終え、1月に入ると極端に売上が減少する傾向にある。ただ新たに転入者が増えているので、新規の客も微増であるが見受けられる。それによって前年と売上の的には変わらないと予想している。
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	・現状、燃料油は今後の仕入価格が不透明で予想は困難だが、今の水準で推移すれば顧客の満タン購入が継続する。前年並みの販売に期待したい。
その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	・期待はしているが、実際はまだ購買意欲が上がらない。
その他小売の動向を把握できる者〔土産卸売〕（従業員）	・今年の冬は暖かいので、季節商材が売れない。商品の仕入れ加減が非常に難しい。
その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（統括者）	・気候は別として、インバウンドを取り込めれば前年を上回することは可能である。ただ、足元の消費は必ずしも良いとは言えない。
その他小売〔ショッピングセンター〕（広報担当）	・エルニーニョによる暖冬が継続する予想で、好材料と言えない。
高級レストラン（支配人）	・予約数がさほどない。
一般レストラン（経営者）	・予約状況も前年並みであり、客からは良い話も悪い話も聞かない。

	一般レストラン（スタッフ）	・変わるような政策がない。
	観光型ホテル（スタッフ）	・宿泊・レストランは今後も伸びると予想されるが、披露宴が相変わらず減少傾向で、それをカバーするのがいっぱいいっぱいである。
	観光型ホテル（専務）	・景気が良くなる要素がみえない。
	都市型ホテル（スタッフ）	・国内で消費増につながる有効な経済政策が今のところ見当たらない。
	都市型ホテル（副支配人）	・この1年、ホテルが取れない状況が続くなかで、旅行代理店や旅行サイトから客室の引き合いが非常に多い。
	旅行代理店（企画）	・海外の政治情勢はしばらく改善されない。
	タクシー運転手	・景気が良くなる施策が政府から打ち出されていない。
	競輪場（職員）	・方向感が読めない。
	競馬場（職員）	・2015年は年始から常に前年を上回る発売傾向であり、それを維持している。
	美容室（経営者）	・美容業界では景気回復が遅れている。年末年始にますますの売上を予想していたが横ばいとなってしまう、今一つ景気は上がってきていない。
	美容室（店長）	・客から景気が良くなったとは聞かないので、変わらない。
	設計事務所（所長）	・当方の業務は2～3か月先に、結果が出る。今の業況を見る限りでは、2～3か月先も変わらない状況である。
	住宅販売会社（代表）	・基本的には特に変わらないが、客の様子から、新築の需要が徐々に減っていくと予想する。
やや悪くなる	商店街（代表者）	・周辺の空き店舗が一向に埋まらない。街中の小売業は、一段と厳しくなってきた。
	商店街（代表者）	・来客数は間違いなく減少する。しかし1～2月中旬にかけて印刷業務の商談があるため、売上は今月から横ばい、もしくは減少ではないかと想定している。
	百貨店（営業担当）	・グローバル経済の動向が不透明な影響で、今後3か月先も予断を許さない状況が続くだろう。特に富裕層の動向については厳しくなるとみている。
	スーパー（店長）	・半径1キロ圏内に競合店ができるので、生活必需品の売上が1割程度落ちるのではないかと懸念している。1月も暖冬で冬物衣料が売れない状況が続くようだ。またガソリンも需要が減っている。1月が暖冬でなければ売上は回復できる。
	住関連専門店（経営者）	・1～3月は学習機のシーズンであるが、少子化で小学校に入学する児童が年々減少している。食料品を中心に生活物価が上昇しているうえに、今後の消費税増税が追い打ちをかけ、消費者は先行き不安だ。景気の先行きは不透明である。
	その他専門店〔書籍〕（代表）	・現状は、景気回復どころか大不況であることが一般庶民の間でも実感され始めているようだ。
	その他専門店〔書籍〕（副店長）	・プレミアム付商品券の使用期限である1月以降は、売上に直結しそうな要素が見当たらない。
	高級レストラン（経営者）	・2～3か月先の景気は良くはならず、やや下降気味になる。
	スナック（経営者）	・年末の売上が上がった分、年始にはその反動で売上が下がる。毎年同じ傾向である。
	都市型ホテル（スタッフ）	・今月までは前年並みの状況で推移しているが、1～3月期は全体的に予約状況が鈍く、このままでは前年を下回ると予測している。
	タクシー運転手	・毎年1～2月はタクシー利用が少ない月であるので、あまり期待できない。
	タクシー運転手	・今月は忘年会帰りの客が多く売上も稼働率も良かったが、客の話では1～2月は芳しくないようだ。
	通信会社（営業）	・2月は例年動きがなく、第3四半期の販売量をみると3月も期待できない。
	ゴルフ場（従業員）	・地域的な問題もあるが、3か月先の予約状況を見ると客が例年と比べて2割減となっており、非常に危惧している状況である。海外客は近くなってきたら予約が入ってくるが、県外客や地元客の予約が入ってきていない。プレー代の安いゴルフ場に流れているようだ。
	その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	・介護報酬マイナス改定の影響は業界全体に広がっており、また3Kである介護職員の人材不足はより深刻となっており、明るい兆しがみえない。
	音楽教室（管理担当）	・学年が上がったり、学校が変わったりでまた生徒数は減っていく。
	悪くなる	商店街（代表者）
衣料品専門店（店長）		・最悪であり、この流れは年が明けても変わりそうもない。

		高級レストラン（専務）	・2015年は前年より随分落ち込んでいる。これから2016年にかけて、北海道新幹線の開業があるので当地は落ち込んでいく。気候もなかなか寒くならず、客の動きも悪い。当地では選挙もあり、なかなか良い状況ではない。
		理容室（経営者）	・全体的に前年よりダウンしている状態である。商店街をみても人の流れが今年は少ない。悪いほうに向かっている。
企業 動向 関連 (九州)	良くなる やや良くなる	-	-
		繊維工業（営業担当）	・仕事量が減ることはないので、いかに上手に受注するかである。
		家具製造業（従業員）	・東京オリンピック開催によるインフラ整備や各企業の投資は確実に伸びており、家具業界においても各社売上が伸びている。関東を中心とした好況が地方にも広がりつつあり、見積数や成約につながっている。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・年度末に向けた地図購入に期待する。
		建設業（従業員）	・仕事量もだんだんと増えてきていて、見積案件も多くなってきているので、景気は良くなる。
		通信業（職員）	・年度末前に受注が見込める案件が若干ある。
		通信業（経理担当）	・原油安が続くなか、車を使う機会も増える。それに伴い人の移動量が増えてくれば、消費に良い影響が出る。
		新聞社〔広告〕（担当者）	・第4四半期は入試シーズンもあり、塾や予備校の広告出稿が盛んになるが現時点では例年を下回る見込みである。新しい商業施設のオープンもあり、わずかながらやや良くなると見込む。
		経営コンサルタント（社員）	・12月は購買力がアップした企業が多いが、これがそのまま2～3か月後も続く。
		経営コンサルタント（代表取締役）	・取引先の多くが採用を積極的に進めている。
変わらない		農林水産業（経営者）	・1～2月の居酒屋やスーパーはどうしても正月の反動で落ち込む。一方、冷食メーカー向けの引き合いはかなり強くなり、おそらく納品できないぐらいの状況になってくるだろう。3月は行楽シーズンや人の移動、卒業式、入学式等も含めてある程度期待できそうだ。
		化学工業（総務担当）	・当工場の製品は、景気にあまり左右されない。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・商社との商品開発が少しは前向きな状態になっているが、従来の商品がなかなか市場的にも難しくなっているのが現状である。
		鉄鋼業（経営者）	・11月後半ごろから受注量が大幅に改善し、12月に入っても同様の状況が続いている。販売価格の改善にはつながっていないが、久しぶりに建設業を中心に需要が増えている。共同住宅向けの鉄筋需要も増えているが、今後も同様の傾向が続くか不安要素もある。
		一般機械器具製造業（経営者）	・客からの引き合いなどの情報が入らず、当面このままの状況が続くそう。
		一般機械器具製造業（経営者）	・ユーザーが輸出向けの製品を手がけていることで、どうしても世界経済の状況に左右される。特に中国経済が悪いので、ユーザーもなかなか思い切った手が打てない。明るい材料としては、対米の輸出量が上がっていることで、そちらには若干、期待している。
		電気機械器具製造業（経営者）	・今の受注状況でいくと来年の3か月は変わらないと確信している。したがって品質や納期の徹底などの社内の体制の整備を全力で進めていく。
		精密機械器具製造業（従業員）	・委託品の受注量が減少して、今後の生産計画もまだ見えていない状況にある。来年もまだまだ不安な状況が続く。
		輸送業（従業員）	・物が売れない時期になっており、各メーカーとも数量が出ない中で、収益を上げようとしてる。全体的には、良くなっている状況とは言えない。
		輸送業（総務担当）	・アメリカ利上げの影響が市場にどのような影響を与えるかは不透明だが、良い方向には動かないだろう。国内もマイナンバー制度の実施などの法改正が企業活動にどう影響するか、楽観はできない。
		輸送業（総務）	・これといって景気が良くなる情報もなく、しばらくはこの状態が続く。
		金融業（従業員）	・今後良くなる材料が見当たらない。また悪くなるといったところもあまり見受けられないので、そのまま今の状況が続く。
		金融業（従業員）	・住宅投資が持ち直しているほか、自動車販売の減少幅も縮小してきている。一方、新興国経済の減速などから、先行き慎重な見方が増加してきている。

	金融業（営業担当）	・消費者に直接かかわる業種は売上高の低迷が続いているため、経営者の投資マインドは冷えている。新規出店などの設備投資計画は控えており、今後も景気は変わらないものと思料する。
	金融業（営業）	・今月は景気はかなり悪化しているが、2016年早々の受注も十分ではなく、当面停滞が続くと考える。
	金融業（調査担当）	・米国の利上げの影響は限定的である。影響は少なく、消費マインドへの影響は取引先からは聞かれない。
	広告代理店（従業員）	・12月の新聞折込件数は、前年同月比100%とほぼ横ばい状態が続いている。ただ折込枚数は前年比94%前後と下降線をたどっており、景気動向よりも新聞離れが続いて、新聞を読まない層が広がっている。幸い軽減税率の対象に新聞が選ばれた。何とか持ち直してほしいものである。景気動向は悪化したままこの半年継続しており、しばらくこの状態が続く。
	経営コンサルタント	・今後、急速には動きが活発にならない。
	経営コンサルタント（代表取締役）	・良くなる要素が特にあるわけではないが、急激に落ち込むような要素もないので、しばらくこのまま春先まで推移していく。
	その他サービス業〔物品リース〕（支社長）	・積極的に投資する大手企業もあるが、大半の中小企業は、やや景気の回復を感じている程度である。慎重な姿勢もあるが、来年も外国人観光客が増加し、かつ数年後のラグビーワールドカップなど福岡に關係するイベントが目白押しとなっている。次年度は動きが更に活発化する。
やや悪くなる	農林水産業（営業）	・市況や今後の国産品と輸入品のバランスを考慮に入れると、悪くなる。
	金属製品製造業（事業統括）	・例年、上期の売上は落ち込むが、下期に向けた受注も進まない。
	輸送用機械器具製造業（営業担当）	・新車効果も薄れ、当初生産計画台数に対して下方修正となっている。
	その他サービス業〔設計事務所〕（代表取締役）	・市町村の12月の補正予算において、調査や計画、設計などの業務が少ない。市民意識調査や他のアンケート調査がこれまでの費用の60～70%程度で予算化される場合もあり、調査・計画や建設コンサルタントの経営は厳しくなることが予想される。
悪くなる	その他製造業（産業廃物処理業）	・中国の減速や原油安などにより相場が下がり、商品も流通していない。
雇用 関連 (九州)	良くなる やや良くなる	-
	人材派遣会社（社員）	・新年度に向けて、人の入れ替わりが発生する。また、年度末需要も出てくるので、短期の仕事が増えてくる。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・当地の景気はアジアからの観光客に左右される。港には連日クルーズ船が入港し、商業施設にはここが日本か、というほど中国人観光客が多い。中国経済が心配されるが、こうした状況は数年は続きそうだ。
	職業安定所（職員）	・例年、年が明けて3月までは臨時求人なども含めて増加傾向にある。
変わらない	人材派遣会社（社員）	・営業・CADなど専門職の求人が多く、企業からの求人があってもマッチングする人材の案内が難しい。求職者の多い、長期事務派遣の動きがもう少し出てきてほしい。
	人材派遣会社（社員）	・例年と比べて長期派遣求人の需要は一服している。4月の需要期まで、企業に増員などの動きはみえない。
	求人情報誌製作会社（編集者）	・採用難が業界を問わず広がってくる可能性がある。今後、小規模事業所の労務倒産が出てくる心配がある。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・企業業績が向上しても雇用拡大につながっていない。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・仕事における前倒し受注率も悪くなく、年度末に向けた支出や消費なども期待できる。
	職業安定所（職員）	・今後も新規求人の増加が見込まれる。月間有効求人倍率が8月は1.01倍、9月は1.08倍になり、10月は1.16倍と3か月連続1倍台となった。
	職業安定所（職業紹介）	・新規求人数は、前年比で大幅な増加となったが、これが今後も続くかどうかは不透明である。
	民間職業紹介機関（支店長）	・労働者派遣法が改正され、いわゆる「規制緩和」の方向となったが、人材需要、求職者の動きは鈍い。最繁忙期がこの状態であれば、春以降、新年度スタートもあまり期待が持てない。
学校〔大学〕（就職支援業務）	・企業の求人に対する求職者の動きはあまり活発ではないが、この時期の傾向としては例年通りである。	

やや悪くなる	人材派遣会社（社員）	・企業からの派遣ニーズにこたえられない案件も多く、企業側も人手不足を一時的・臨時的な派遣ではなく直接雇用で補うようになってきている。景気が安定していることもあり、企業も直接雇用を受け入れる体力が備わっている。人材派遣業界にとっては、人材不足がますます深刻となり、業界にとってはマイナス成長となることを危惧している。
	人材派遣会社（営業） 職業安定所（職員）	・消費税増税がどう出るのかが不安である。 ・先日実施された米国の金利引き上げの影響が中国を初めとする世界経済に影響を与える可能性がある。企業マインドの冷え込みにつながり、新規求人を控えるなど雇用状況を下向きにする懸念がある。
悪くなる	-	-